

訪問看護ステーション 連絡協議会だより

第29号

発行年月 2015年2月
 発行所 岡山県訪問看護ステーション
 連絡協議会
 ☎700-0805 岡山市北区兵団4-39
 岡山県看護研修センター3階
 TEL086-238-6688・FAX086-238-6681
<http://okayama.houmonkango.net/>
 E-mail okayama@space.ocn.ne.jp
 発行責任者 石本 傳江

新年のご挨拶 着実に歩みを広げる年に

岡山県訪問看護ステーション連絡協議会

会長 石本 傳江



会員の皆様、
 賛助会員の皆様、
 新年おめでとうございます

います。昨年は、岡山県
 や市からの委託事業も増えて多忙な1年
 でした。

また、新規開設ステーションが9施設あ
 り、入会事業所は107となりました。

新しい年は地域包括ケアの実践へ向けて、
 国も自治体も本格的に始動を始めます。私
 たちも地域ケア会議に参加して連携をより
 密にし、着実に在宅医療・看護の促進を図
 り、訪問看護の価値を示す1年を目指しま
 しょう。そのため、訪問看護職員の確保・
 定着、ラダー研修体制の確立、コールセン
 ターにおける相談・利用情報提供体制の強
 化等を計画しています。特に、看・看護携
 や多職種による事例検討を重視し、実践か
 ら地域包括ケアシステムを導く機会を得て
 いきたいと考えます。本年もご支援・ご協
 力よろしくお願ひ申し上げます。皆様にと
 りまして、この1年がご健勝で明るい年
 になりますように祈念いたします。

「院内連携 頑張っています」

倉敷しげい訪問看護ステーション 管理者 秋山 陽子



地域医療体制の構築に、訪問看護はとても重要な役割を担っていると言われていたのですが、病院等の看護師さんにもなかなか必要性を理解してもらえないと感じませんか？私たちはまず、併設病院看護師さんに訪問看護をもっと知ってもらいたいと考えています。

〈院内ベッドコントロール会議〉 病院ベッド稼働把握と訪問看護の状況報告をしています。

〈院内相互研修〉 受講者から「一人の患者さんだけに集中できる贅沢な時間、この人のために何が出来るか考えることが楽しい」「目から鱗！自宅療養は無理と思っていた人でも帰せると思った」等の訪問看護の感想を聞くことができました。

〈病棟退院支援カンファレンス〉 入院中の利用者様の在宅での状況や家族関係・介護力等について情報提供し、病棟からは新規利用者の紹介をいただいています。

〈病棟ウォーキングカンファレンス〉 入院中の利用者様の状況把握と入院患者様の自宅退院アドバイスをしています。

「病気と共に人を見る」の精神

訪問看護ステーションレモン 管理者 龍門 千治

訪問看護ステーションレモンは経営母体が精神科病院という事もあり、開所当初から精神科訪問を主体として一般の訪問も手がけるステーションとして、美作地区（県北部）を中心に、広く活動しています。母体病院の理念「病気と共に人を見る」を掲げスタッフ3名の弱小事業所ではありますが、利用者が住みなれた在宅で一日も長く継続していけるように、社会資源の一部として幅広い知識で対応していけるように努力しています。不規則な服薬による病状悪化や、近隣に知られたくない等の理由での訪問拒否が精神科の特色ともなり得ます。そんな中、本人は

もちろん家族を含めて「理解」「納得」「振り返り」を念頭に置き、信頼関係を基盤とする訪問看護を目標に日々研鑽を積んで参りたいと思います。



ステーションからの

リレーだより

新設の ステーション紹介

ザグザグ訪問看護ステーション 野田

管理者 渡邊尚子

平成26年4月ドラッグストアザグザグの訪問看護ステーションとして開設致しました。利用者様を「一番大切な人」と思い「家で過ごしたい」という思いを支え、医師・他職種の方と連携を図りながらサービスの提供を行っております。当事業所では利用者様がしたい事・目標実現の為のお手伝いをさせて頂いております。指示書に基づきながらリハビリや脳トレ・音楽療法等、その日利用者様が行いたい内容を自己選択してもらい、サービスの提供を行っております。小児から高齢者までの利用者様が安心して楽しく過ごせるようホスピタリティ精神に基づき全力でサポートしていきたいと思っております。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

えがお訪問看護ステーション わけ

管理者 鶴田節子

和気町唯一のステーションとして、平成26年5月「えがお訪問看護ステーションわけ」を開設しました。これまで医療機関として訪問看護を行っていましたが、ステーションの開設により夜間や休日などの緊急対応が可能となりました。

職員は看護師3名、理学療法士3名で、神経難病の方や身体障がい者の方への支援、看取りの支援を積極的に行っています。「元気に・明るく・ハツラツと」をモットーに、看護、リハビリにかけける情熱とチームワークで、日々利用者様に寄り添うことを心がけています。

今後も利用者様とご家族が、長年住み慣れた地域やご家庭で、えがおで過ごしていただけるよう、24時間365日の安心とえがおをお届けできるよう頑張りますので宜しくお願い致します。

赤磐市訪問看護ステーションベル

管理者 長谷貴子

平成26年7月より「訪問看護ステーション」として開業しました。

ステーション名は、以前ステーションとして活動されていたということで、その先輩方のようにスムーズに活動できるよう、そしてどんな状況の方にも対応できる、振れば「チリンチリン」とすぐ鳴る「ベル」にしました。

東備地区にあるこのステーションも、世の現状のとおり、「高齢化」問題が目の前にあり、在宅で生活されている方は、老々介護を余儀なくされている状況や、日中は家族不在である方など様々です。「介護保険・訪問看護について全く言葉さえ耳にしない。」という高齢化にもかかわらず、現状のズレを感じます。

その状況を知り、本人を中心に、家族、医療、介護と連携をとり、少しでも笑顔で過せる状況の提供の一つに、鳴らせば答える「ベル」を利用して頂けたらとスタッフ一同、思いを一つに山間の建物の一隅にステーションを掲げています。

地域的にも、山あり谷ありであり、少し暗くなると猿、鹿の気配を感じる時や、星が妙にきれいに感じたりと様々ですが、とりあえずは、チャレンジしてゆこう!との思いで、ちよっぴり怖い道も前に前に進んでいる、自然と共同体のステーションです。

津山第一病院 訪問看護ステーション

管理者 豊福まゆみ

津山第一病院の併設施設である津山第一病院訪問看護ステーションは、平成26年5月1日に開設しました。

現在のスタッフは看護師3名と理学療法士が1名所属しています。訪問先は津山市、美咲町、久米南町、勝央町など幅広く、看護師は365日・24時間体制で訪問看護を行っています。

スタッフは看護師としての経験は長いのですが、訪問看護師としての経験は浅いため、3人で相談しながら、日々活動しています。また、その他のサービス事業者の方々などにも支援していただきながら徐々に利用者数も増加してきています。

これからも、疾患や障害があっても、“慣れ親しんだ自宅で暮らしたい”と思われる方、在宅療養でお困りの方などに看護サービスを提供していけるよう、頑張っていきます。よろしくお願ひいたします。

アーク訪問看護ステーション 福田

管理者 神崎ゆかり

アークには「舟」という意味があります。

私たちの想いは「関わった全ての方が安心して目的地までたどり着く事が出来る様にサポートする」事にあります。

お一人お一人の思いに耳を傾け、一緒に考えながらその人らしく安心して在宅生活ができる様に全力を尽くします。

営業時間は平日9:00~18:00ですが、サービスを必要とされている方には24時間365日可能な限りニーズに応えられるようスタッフ一同頑張っています。

今後ともアーク訪問看護ステーション福田をよろしくお願ひ致します。

フロンティア岡山 訪問看護ステーション

管理者 細木美和

福祉用具を幅広く取り扱っているフロンティア岡山が、薬局・居宅介護支援事業・訪問介護支援事業に続き、平成26年9月に岡山日赤病院前で訪問看護ステーションを開設致しました。看護師4名でスタートし、利用者様もまだまだ少ない状況ですが、スタッフ一同日々様々な事を学ばせて頂いております。私達は看護が必要な利用者様が住み慣れた我が家で、暮らし慣れた地域で安心して過ごして頂ける様取り組んでいます。またサービスの向上を目指し、各事業所の専門的知識や経験も共有しながら頑張りたいと思ひます。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

訪問看護サミット2014に参加して

副会長 重平典子

平成26年11月29日(土)にベルサーレ新宿グラウンドにて日本訪問看護財団設立20周年記念として訪問看護サミット2014が開催されました。その中で、訪問看護の推進にご尽力され全国の各協議会より推薦された10年以上の管理者の方々81名が表彰され、財団事業の推進に貢献された方々26名と6団体が感謝状を贈呈されました。表彰者81名のうち当協議会からは訪問看護ステーション絆の玉谷弘美管理者(22年)、訪問看護ステーションまいんど都築昌恵管理者(19年)のお二人が表彰されました。おめでとうございます。

午後からは「在宅ケアの未来」と題してパネルディスカッションが行われました。パネラーの村松静子さんは、「在宅看護は看護師個人の人間性や能力が問われる場でもある」と言われ「必要な時、必要な看護を提供することが大切である」と話されました。また、大熊由紀子さんは、プロフェッショナルとは「あえて困難な道を選択し、先入観や規定概念にとらわれず、情

熱をかたむけて創意工夫をし、ふれずに目的を達成しようとする人」とエールを送っていただきました。

また、サミット終了後にはさとう宗幸さんのライブ&トークがありました。宮城県出身のさとう宗幸さんのトークと歌には、東北大震災の当時の思い出や活動などを交えて話され、歌を聴きながらこみ上げるものがありました。歌は心を癒したり悲しい気持ちを救ったり、怒りを抑えたり勇気づけられたりと素晴らしい役目を持っていると思います。私たちもとても癒された時間でした。

「私たちに何ができるのか、これから何をしなければいけないのか」と考えさせられた一日でもあったように思います。受賞者のお二人は本当におめでとうございます。最後に『継続は力なり!』



表彰していただきました!!

訪問看護ステーション絆 玉谷弘美

このたび、日本訪問看護財団設立20周年記念行事として各都道府県で2~3名の訪問看護に10年以上従事貢献したナースとして推薦を頂き11月29日に新宿で行われた訪問看護サミットで表彰していただきました。制度が出来た平成4年から、訪問看護初心者として出会った利用者様に育てられ数々の失敗も許されてきて今があると「感謝」の一言に尽きます。私の人生そのものの訪問看護、独立開設して5年になります。22年間に起こった出来事すべてに意味があり私の成長に役に立ち、理解してくれた家族への感謝も忘れてはならないと思います。



ポスター・DVDにも出ている現役ナース、青木さんと・・・



想いでの一ページとなりました。記念品の写真立てにはスタッフとともに輝いている写真を飾りたいと思います。ありがとうございました。

訪問看護ステーションまいんど 都築昌恵

「日本訪問看護財団設立20周年記念・貢献者表彰」として連絡協議会より推薦をいただき、表彰状をいただく幸運を得ました。

平成7年～訪問看護を始め、19年がたちました。

その長さに驚きつつ、在宅の“ザ”の字も知らない私が現場の楽しさに魅せられ、ここまで続けて来れた事、ひとえに出会った方々全員に感謝するばかりです。

今後は益々増える訪問看護のニーズに応えるため、人材育成・世代交代が課題です。今後とも微力ながら一助となる様、努力していきたいと思っています、本当にありがとうございました。



平成27年度の年間研修計画は内容が決定次第お知らせします。

皆様から頂いたアンケートを基に研修計画を検討中です。
決まり次第、ご案内をさせていただきますので、是非ご参加下さい。

研修委員

褥瘡セミナーに参加して

スマイル津高訪問看護ステーション 管理者 中川 憂 理



在宅で出来る褥瘡予防についてのセミナーに参加させていただきました。

今年度、訪問看護管理療養費の算定要件に褥瘡に関する危険因子の評価や、創の評価、看護計画を作成・実施・評価を行うということが追加されました。看護師は、褥瘡の発生危険因子の予測をしながら在宅での日常生活援助を行なうため、褥瘡予防に関して常に学ぶ姿勢を持ち、知識を深め、実践能力を高めることが大切であると改めて認識しました。今回はDESIGN-Rで評価をするというグループワークもあり、普段行っている評価の指標が自分本位になっていないか、標準的なものになっているのか？という確認にもなりました。

在宅で過ごされる方々の褥瘡発生率が減少するよう、地域で役に立てる看護師を目指しこれからも研修に参加して還元していきます。ありがとうございました。

訪問看護 Q&A

by コールセンターおかやま

大野 幸恵・黒田喜美代

最近CAPD(腹膜透析)への質問が増えています。

Q: 腎不全で腹膜透析導入して退院される方の訪問の依頼があった。

保険は何を使うのか？ 特別管理加算は取れるのか？ 経験がないができるか？

A: 腹膜透析導入時の初回退院のみ3ヶ月間更生医療が使えます。

- ・訪問看護に対する更生医療券の発行の手続きを退院時に行います。但しステーションは自立支援の届出が必要です。
- ・自立支援医療機関(入院先の病院)の判定票(腎臓機能障害用)と訪問看護ステーションの看護計画書(様式自由)が必要です。
- ・看護計画の内容は、本人、家族が腹膜透析の手技と清潔操作を在宅で自己管理できる為の計画書です。(簡単な計画書でいいようです)
- ・提出先は住所地の市・区役所の自立支援を申請する障害福祉に関係する課
- ・介護保険を持っている人は、介護保険の自己負担部分は3ヶ月間更生医療での公費負担になり、医療保険の方は3ヶ月更生医療で、以後は週3回以下の回数で訪問が出来ます。
- ・腹部にカテーテルが挿入されているので、特別管理加算 (I) 500単位が算定
- ・テルモやバクスターの業者が小ステーションでもすぐに研修をしてくれます。

「精神科看護研修」に参加して

訪問看護ステーション大輪 管理者 楠野 真由美

平成26年12月14日(日曜日)岡山県精神科医療センターにて、連絡協議会では初めての精神科看護研修会が開催されました。

午前中、同センターの医師、佐藤康治郎先生より精神疾患の基礎知識をご講義頂き、その後、グループ討議で出た困難事例をホワイトボードに書き出しました。数多くの事例に対して、一つ一つ丁寧に指導頂き、有難く、又、納得させられました。

午後からは、同センター訪問看護師長、石神弘基先生より精神科訪問看護について、現場を百戦錬磨された方ならではの事例を含めた具体的なご講義を頂きました。各グループより発表された午前とは異なる新たな困難事例にもしっかりと対応アドバイスして頂き、「皆よく頑張られて、そのまま大丈夫。」と温かく励まして頂きました。又、後半では、同センターソーシャルワーカー、黒岡真澄先生より、患者様を支える医療、福祉の連携についてPSWの立場から基本的な自立支援医療や、訪問看護指示書の依頼の仕方等、そして、問題を抱える人が元気になるために、まんじゅう理論を実践形式で教えて頂き、大変参考になりました。

なるほどと思ったり、目から鱗だったり、「このままでも大丈夫なんだ。」と少しほっとしたり、精神科医療に携わる勇気が出た1日でした。

課題検討委員会よりお知らせ

委員 西川 秀香

1, 災害マニュアル作成について

昨年度は、訪問看護ステーションは災害発生時にどう動くのかを考え、標準マニュアルを作成しました。

- ①療養者の緊急支の手帳
- ②ステーションでの事前準備マニュアル
- ③訪問看護師の緊急行動指針

の3点です。しかし、災害の状況は地域ごとに大きく異なるため、今年度は地域・地区に即したステーションの災害対策マニュアル作成に、地区委員の皆様を中心として取り組んで頂きました。地域ごとに特色のあるものが出来上がりつつあります。他地域のマニュアルを参考にし、更に完成度の高いものを目指していただけるとありがたいです。

2, 教育ラダーについて

人材育成を系統立てて行うことができるように、取り組んでいます。病院で使用されているラダーは、ステーションには使いづらいので、使えるものを、と奮闘中です。新任職員の技術チェック表も出来上がりつつあります。乞うご期待を!



新年を迎え、インフルエンザが猛威を振るっています。皆様大丈夫ですか？

寒さの中、利用者様の体調変化がめまぐるしい時期です。日々忙しくされている皆様も健康管理に気をつけ、今年1年笑顔で頑張りましょう。新設の訪問看護ステーションが出来、仲間が増えて心強くなります。優しい手をさしのべる看護師さん、心の支えになる看護師さんでいたいですね。

編集後記

広報委員